

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 3年 3月 18日

事業所名 放課後デイサービス ラボこっしー

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓		利用人数に応じて、場所・人数を変えて活動を取り組んでいる。	定員10名に対して、施設の床面積が88.00㎡である為、基準を満たしている。
	2 職員の配置数は適切である	✓		支援の必要度に応じて、職員1名：利用児1～3名で対応している。	利用希望を取り、利用者の人数に応じてスタッフの配置を行い、1対1～3で支援にあたっている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		✓	段差に関しては、色を付ける等し視覚的に示している。	階段があるが、手すりが設置されている。また、昇降時は必ず職員が利用児に付き添い、転倒防止に努めている。室内もまちづくり条例に則った内装を施しているため、段差が少なく、通路が広い。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	✓		全職員参加型の朝礼、フィードバック、連絡ノート、クラウドサービスの活用を行っている。ケース記録に個別支援計画を反映させ、目標に向かっての支援、記録を取っている。	朝礼にて前日の支援の状況や面談の報告、保護者からの連絡事項等共有している。また年間担当からの指導をもとに支援を行いフィードバックを行う事でその日の支援を振り返り、改善を目指している。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓		年1回の保護者へのアンケートの実施、スタッフの自己評価を基に業務改善の対策等話し合いを行っている。	スタッフで会議を行い、業務改善に繋げている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓		公開した際は、保護者へメールにてお知らせしている。	当社のホームページにて公開している。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	✓		児相その他外部からの見学を多く受け入れている。また資質向上研修や外部講師を招いてのカンファレンスを通して、実際の支援に対する指導や研修の理解度に対する評価を受けている。	将来的に、第三者委員会設置を検討したい。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		リモートでのコンサルティングを取り入れ、言語聴覚士の外部講師からの助言を取り入れている。	資質向上研修を年に7回～10回行い、専門知識、支援スキルの向上に努めている。外部の研修にも積極的に参加している。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	✓		フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントを活用し、行動観察・記録・課題分析を行っている。	保護者からの聞き取りや利用児からの聞き取りを行っている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	✓		NCプログラム、Vineland-II、デンバー、作業療法評価、リモートでの言語聴覚療法評価を取り入れている。	NCプログラム、vineland II・障がい特性シート、デンバー、PEP-3等を毎年更新し、反映している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		支援ユニットを作りプログラム担当職員を中心として話し合い内容を決めている	感染症対策を行ったプログラムの工夫や長期制作をとして、個々の発達に合わせて長期的な物作りを取り入れる。
適切な支援の提供	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		・利用時間を意識しながらプログラムや課題設定に努めている。 ・公園、外食、体験活動、施設見学などカテゴリーは同じでも、行先を変更	体操プログラムやダンス・長期制作等追加で取り入れた。今後も、固定化されないよう、新たな意見や活動を取り入れていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	✓		利用時間を意識しながらプログラムや課題設定に努めている。	学習や体幹トレーニングなど、個々に合わせて定期的に行えるように曜日を設定している。また、連携作業や個別の作業等組み合わせ、平日に時間がなく取り組めない課題等は、終日に取り組むようにしている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	✓		利用者の発達段階に合わせて、社会性の向上を目指し個別活動と集団活動を毎回組み合わせ実施している。	アセスメントをベースに、個別支援計画を作成し、本人に合った支援計画の作成を行っている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓		毎日、詳細にケース記録を記入し検証・改善に繋げている。ケース記録に支援計画を載せる事で、計画に沿った支援に繋げている。	毎日朝礼にて情報の共有や注意点の周知徹底を行っている。過ごす場所、担当、流れ、配慮事項を支援前にスタッフ間で打ち合わせを行っている。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓		打ち合わせを基にしたフィードバックを行っている。	支援後、フィードバックを職員間で行い情報を共有している。また、必要事項は翌日朝礼にて報告している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓		標準化されたケース記録書式、記録すべき点の明確化を行っている。	個別支援計画に沿ったケース記録フォームを作成し、支援後に記録を取っている。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	✓		毎回、支援計画を確認・実施し、現状に合っているか、達成状況について検証している。	ケア会議にて、成長の度合いや達成度、新たに挑戦すべき課題、より伸ばしていくポイント等を職員間で話し合い、判断している。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	✓		毎年4月にガイドラインの研修を行い、職員間で共有を行っている。	ガイドラインを把握したうえで、活動プログラムを組み支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓		児童発達支援管理責任者及び年間担当スタッフに参加している。モニタリング様式の記入も年間担当で行っている。	年間担当スタッフが参加することで、密な情報提供・共有ができる。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	✓		担任の先生、ご家族との連携を取りながら連絡調整を行っている。	お迎え時に最近の様子、学習進度、生活面に関すること等情報共有を行っている。また新入所者の通う学校には予め挨拶を行い、送迎時の注意点を確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		✓		医療的ケアが必要な利用者がいない為、現在は行っていないが、必要になれば行いたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	✓		先方からの引き継ぎシートを活用している。	サポートブックによる申し送りを受け。情報共有、相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	✓		こちらから引き続きシートの提供を行っている。	引き継ぎシートを作成し、保護者の方へ渡している。保護者を通して渡してもらっている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓		研修受講と研修での発表による密な連携を行っている。	コロナの影響で、研修が減っているが、継続して専門機関との連携は取っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		✓	公園に行った際は、地域の子供たちと遊ぶ機会の提供をしている。	感染症の対策を行ったうえで、今後も地域の子ども達と遊べるよう、機会を提供したい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		✓	協議会、基幹相談支援センターとの連携をとっている。	・左記機関とのやり取りは多いので、引き続き連携していきたい。 ・会議への参加要望があれば積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓		専門職としての知識・スキルによる適切な助言と相談しやすい関係作りを努めている。	・送迎時や電話連絡又メールにての連絡にて日頃の子どもの様子を伝えている。 ・モニタリング面談にて、支援方針を共有している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	✓		送迎時やモニタリング面談の際に、直接お話しして指導・助言を行っている又、保護者も参加出来る事業所内研修を開催している。	電話や面談での相談、資料提供、送迎時やモニタリング面談での助言、おうちミッション・スタッフからの宿題・家庭での運動支援等を行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓		利用を始める前の契約の際に、時間を設け、丁寧に説明を行っている。	問い合わせがあった場合は、丁寧に説明し対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓		お便り帳や送迎時、電話、面談時に相談に対応している。	・お便り帳、メール、電話、送迎時等で相談があった場合は、傾聴、受容を心掛けて助言を行っている。 ・必要に応じて、家庭支援用支援ツールの提出を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		✓	不定期に、おやこっしーカフェ（保護者勉強会・交流会）を開催していたが、今年度は感染症の為実施出来ていない。	リモートでのおやこっしー等、感染症対策をして行う事が出来るように工夫する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	✓		苦情受付窓口や対応について説明・掲示している。又、気になる事があった場合は迅速に対応している。	苦情があった場合には、職員間で共有し改善している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓		ホームページやFacebook、メールにて情報発信をしている。	お便り帳を写真付きにメールに変更し、より詳しく様子が分かるようにしている。
	35	個人情報に十分注意している	✓		厳重管理に努めている。	第三者の目に触れる可能性のあるもの以外も基本的に伏字で名前等表記している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓		利用者に合わせた絵カードや写真カードを作成し、意志の伝達が出来るようにしている。また、保護者の要望や利用者に合わせてそのカードを家庭にも提供している。	視覚優位性を生かした構造化（TEACCH）による支援を行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		✓	定期的に地域清掃や地域交流をプログラムに入れている。	・例年は定期的に作った作品を地域の店に持って行き、挨拶を行っているが、現在はコロナ禍の為行っていない。コロナが収まったらまた地域交流を行いたい。 ・地域交流を行った際はFacebookなどを使用して、実施したことが保護者にわかりやすく伝わるよう、発信内容を工夫したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署の担当者による防犯指導、福岡市災害対策課担当による防災・避難指導を事業所内研修で実施している。 ・毎年マニュアルの改訂を行い職員に周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の長期避難に備え、常用する薬の服薬介助申請書提出と常用薬の携帯を依頼している。常用薬は毎年確認を行い、服薬介助申請書と携帯依頼している常用薬の更新を行っている。 ・子ども未来局から感染症等の情報が来た場合には、保護者にも周知している。 ・感染症対策については、毎日の施設内外の掃除、検温、手洗い・手指消毒、次亜塩素酸消毒液による拭き上げ、定期的な換気、マスク着用などの対策を行い、保護者に周知している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓	2ヶ月に1回様々な災害を想定した避難訓練を行っている。職員のみ避難訓練も行っている。	避難訓練、災害指導や研修を行った際には、Facebook等を活用し保護者への実施したことが分かりやすく伝わるようにする。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓	職員会議や朝礼で指導を行っている。	セルフアドボカシーの考え方を全職員で共有している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	✓	事前説明、支援計画書への記載をしている。	自傷行為や周りの利用児の怪我・事故に繋がる恐れのある場合は、制止する事を支援計画に記載し、保護者の了承を得ている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓	保護者への食物アレルギー表による確認を行っている。	直接的に医師の指導を受けてはいないが、アレルギーがあると診断された児童の保護者に確認を取り、対応をしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓	ヒヤリハットノートを作成し、毎日目を通し活用している。	ヒヤリハットの事案が発生した場合、報告書を作成し、事業所間、事業所内で共有している。